

平成20年度 学校関係者評価報告

1 実施日時 平成20年9月19日(金) 16:30～

2 参加者

学校側 中田 敏夫 校長 河合 智仁 副校長
彦坂 登一朗 教頭 中村 僚志 教務主任
仲田 英成 校務主任

学校関係者

地域代表 三嶋 勉 様 深津 浩 様
同窓会年次代表 牧野 典子 様
父母教師会代表 川合 厚 様

3 協議内容

改善策 「授業づくりを見直すとともに、基礎的な知識や技能の習得を図る」

- ・設問6では、教師と児童の差が大きいように感じる。この原因は設問が曖昧であったためだと考えられる。より具体的にしていくとよい。
- ・基礎学力は大切である。附属は塾に行かせなくてはという声も聞く。南山大学では、子どもに塾へ行かせない方針を掲げている。大学生が放課に教えるという方法もとられているようだ。改善策を具体的に示していくとよい。
- ・基礎的事項の習得が優先。それから、附属らしさを生かし、かかわる力や主体性を育てていくとよい。具体的な取組を考えて、保護者に知らせていく。
- ・基礎学力がついているかどうか、点数などで根拠を示していくとよい。

改善策 「子どもたちがルールやマナーを守り、安全で気持ちよい生活環境を整える」

- ・清掃道具が道具として使われていない。放置されている現状が見られる。
- ・掃除をしない現状があるが、家庭との連携も必要である。
- ・教師をまじえて、はき方やゴミの取り方などの指導を根気強くやっていくしかない。
- ・清掃活動は、教育活動の一環であり、今後も粘り強く指導を継続的に行っていく。
- ・設問19では、子どもの評価が低い。やや教師の配慮が足りないのではないかと。
- ・大学への要望も強くしていったほしい。耐震化、視聴覚機器の整備、エアコンなど。
- ・父母教師会の営繕費を使ってもよいのではないかと。
- ・新体育館も建設される。さらに施設整備を行い環境面でも附属がよくなるように大

学にはたらきかけていく。

改善策 「家庭，地域に学校の様子や状況について積極的に情報提供していく」

- ・学校が楽しいというのはなによりである。
- ・ホームページはよく見ている。今後も新しい情報を掲載して行ってほしい。
- ・学級だよりは，教師によって差があるように思う。どの担任も努力をしてほしい。
- ・大きな事故は今のところないが，未然に防ぐ努力をして行ってほしい。
- ・学校が取り組むことは大切だが，半分以上は家庭でもやっていける内容。親がしつけや学習を把握し，学校と連携をしていくこと。家庭の中の子どものあり方を検討してやっていけば，効果があがる。

4 学校関係者評価を受けての具体的な方策

【改善策 について具体案】

基礎的な知識の習得のために，国語と算数を中心にドリル学習などを取り入れていく。

【改善策 について具体案】

清掃活動については，根気強く指導にあたりたい。朝の会や道徳などの時間を使って，清掃の意義や目的を話し合う機会を設けたり，子どもたちの役割を明確にして，15分間の清掃活動の充実を図っていく。また，環境委員会を中心に，清掃道具の点検や整備を行い，清掃道具を大切にしていこうとする意識を高める。

また，施設，設備面では，新体育館建設は実現する運びとなったが，本館の耐震工事や排水工事など，子どもたちが，今以上に安全で快適な生活ができるように，大学へ要望していく。

【改善策 について具体案】

ホームページについては，週に1度は新しい情報を載せていくように，情報担当が職員に情報提供を要請していく。今回の「学校評価結果」についても，ホームページに掲載していく。

しつけについては，家庭訪問や懇談会等で，話題に出し，家庭でできること，学校でできることなどを明確する。そして，継続した指導をしていく。また，学級だよりや連絡帳などを通して経過や成果などを随時掲載し，各家庭に知らせていく。